

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月17日(金)

事務事業		救急活動推進事業		担当課	警防課	担当係	救急管理係	管理番号	52221	
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	1	備えができて安全・安心なまちづくり		根拠法令 個別計画等	救急救命士法				
	小項目	2	消防・救急体制の充実							
	主要プロジェクト									
事業概要		救命率向上のため、救急救命士及び救急隊員に病院実習、研修等を実施することで、資質能力の向上を図るものである。								
目的 ※何のために		質の高い救急医療サービスを市民へ提供するため。								
対象 ※誰・何を対象に		現任の救急救命士及び救急隊員。								
手段 ※どのように		病院実習、救急研修及び教育訓練を実施。								
成果 ※何を求めるか		救急救命士を含む救急隊員の資質向上を図る。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他( )								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額(円)
		一般会計	9	消防費	1	消防費	1	常備消防費	救急活動推進事業	26,537,063
本事業の 主な業務		・指導救命士養成研修					・埼玉県北部地域メディカルコントロール協議会負担金の支出			
		・救急救命士再教育病院実習					・救急救命士ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管病院実習			
		・救急救命士気管挿管病院実習					・			
		・救急救命士薬剤投与病院実習					・			
		・救急救命士就業前病院実習					・			
		・特別管理産業廃棄物収集運搬及び処理委託					・			

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画		・搬送待機ステーション	・自動式心マッサージ器	・救急ワークステーション			
事業費	予算(現額)	15,454,000	27,049,000	3,306,000	3,684,000		
	決算額	14,132,456	26,537,063	0	0		
	財源内訳	国支出金	11,178,000	24,134,000	0	0	
		県支出金	541,000	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	
		他特定財源	886,000	591,000	1,049,000	1,344,000	
		一般財源	1,527,456	1,812,063	2,257,000	2,340,000	
人件費	従事職員数(人)	1.25	1.25	1.20	1.20		
	人件費相当試算※	9,702,394	9,836,946	10,415,969	10,415,969		
総事業費試算		23,834,850	36,374,009	13,721,969	14,099,969		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	薬剤投与病院実習数	目標値	回	3.00	2					
		実績値		1.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		薬剤投与の座学終了者数により目標値を設定/病院実習数							
	実績値の算出式									
活動指標 2	気管挿管病院実習数	目標値	回	2.00	2.00					
		実績値		2.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定 / 病院実習数							
	実績値の算出式									
成果指標 1	薬剤投与認定救命士数	目標値	人	71.00	71.00					
		実績値		69.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定 / 資格取得者数							
	実績値の算出式									
成果指標 2	気管挿管認定救命士数	目標値	人	25.00	27.00					
		実績値		25.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定 / 資格取得者数							
	実績値の算出式									
成果指標 3	救急医療情報システムアクセス用情報機器端末使用率	目標値	%	100.00	100.00					
		実績値		100.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		全ての救急活動に有効に使用できるよう目標値を設定 / 使用回数/救急出動件数							
	実績値の算出式									
成果指標 4	救急隊員1人あたりにかかる費用	目標値	千円							
		実績値		491.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		社会的背景も影響するため、目標値は設定できない。 / 総事業費/救急隊員							
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。  
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	救急救命士が現場活動で、特定の救急救命処置を行うには、実施基準などで定められた病院での実習を修了する必要がある。今年度は、計画していた救急救命士が病院での実習が問題なく修了し、現場で特定行為が行える救命士の充実が図れた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	各種救急救命処置の資格要件を満たした救急救命士が、救急現場において適切な救急救命処置を実施している。
			評価者 課長補佐兼救急管理係長 高野 武己

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	自動式心マッサージ器の取り扱いシミュレーションをタブレット端末で撮影し、動画を見せ活動の理解を深めるように各救急隊に提示できた。
			評価者 課長補佐兼救急管理係長 高野 武己

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	コロナ禍の影響により、集合研修等の救急に係る教育機会が大幅に減少し、研修等は中止となるなど十分な効果が得られていない現状である。このことから、タブレット端末を活用してオンライン研修等を行い、救急救命士等の教育の推進を図る必要がある。救急業務高度化の進展の一環として、医療機関と連携して行う派遣型救急ワークステーションの運用を開始し、医療との接点をより充実させることで救急救命士等の資質向上に努める。
達成状況及び その効果	コロナ禍の影響が続く中、救急隊特別教育訓練の実施や今年度導入した自動式心マッサージ機の取り扱いシミュレーションをタブレット端末を活用し、動画で活動の理解を深めるよう各救急隊に提示したことで、導入後早期に現場で活用することができた。 派遣型救急ワークステーションの運用開始に向け、深谷赤十字病院と課題解決の調整等を実施したことで、県北部初の派遣型救急ワークステーションの協定を締結した。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	救急活動推進事業	担当課	警防課	担当係	救急管理係	管理番号	52221
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input checked="" type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
		自動式心マッサージ器は、地方創生臨時交付金により各隊に配備できたため、今後は各救急隊が訓練や活動を通じて、安全、確実、迅速に機器を装着し、現場滞在が短縮できるようにする必要がある。 派遣型救急ワークステーションでは、約1年の間、医療機関と連絡を密に交わし、深谷市と深谷赤十字病院とで運用に関して締結がなされた。来年度は本格運用するため、現場で処置をする医師のために、救急隊が処置の補助技術を習得する必要がある。 令和5年5月8日から新型コロナウイルスが感染症法の位置づけが2類相当から5類に変更になり、生活様式もコロナ禍前に戻りつつあるため、救急隊員の研修も集合研修ができる環境になるが、集合研修にこだわらずオンラインなど、より効果的で効率的な方策を検討する必要がある。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	次長兼警防課長 高野 政之				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	派遣型救急ワークステーションが本格運用し、同乗した医師が現場で処置するために、必要な補助技術や医療器材の取り扱いの研修をしていく。 現場の自動式心マッサージ器装着例も多くなり、各救急隊が工夫している装着方法をシミュレーションで周知して、現場滞在の短縮につながるようにしていく必要がある。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	救急隊員の資質を維持するため、指導救命士が主体となり、研修や訓練を企画していき継続した研修や訓練を実施することが重要である。 派遣型救急ワークステーションは、医療機関と意見交換をして、医師同乗の要件を調整し効果的な実習にするため、事後事例検討会等をする必要がある。

8. 評価指標グラフ

